2018 年4月 28 日(土) 第 17 回「聖書で読み解く映画カフェ」上映作品 千歳烏山光の子聖書教会

「ショーシャンクの空に」の見どころ

The Shawshank Redemption 1995 年公開 アメリカ映画 105 分

◆上映前◆

映画データ

監督 フランク・ダラボン。「エルム街の悪夢3／惨劇の館」「ブロブ／宇宙からの不明物体」の脚本家だった彼の監督デビュー作(脚本も)。その後、同じスティーヴン・キング原作、ダラボン監督・脚本で「グリーンマイル」(1999 5 年後)

原作: スティーヴン・キング。彼の映画化された作品の中には「キャリー」('76 年)、「シャイニング」('80 年)、「デッドゾーン」('83 年)などのホラーや「ミザリー」('90 年)などのミステリーと共に、「スタンド・バイ・ミー」('86 年)や本作のような人間の本質を鋭く見つめる作品もある。この映画の原作は彼の中編小説を集めた作品集「恐怖の四季」の中の一編「刑務所のリタ・ヘイワース(Rita Hayworth and Shawshank Redemption)」。

出演 ティム・ロビンズ(アンディー): 196センチの長身。自ら監督も手がけ、第2作「デッドマン・ウォーキング」('95年)で、同棲していたスーザン・サランドンにアカデミー主演女優賞をもたらし、自らも監督賞にノミネート。

モーガン・フリーマン(レッド"調達屋"): 「ドライビング・ミス・デイジー」('89年)本作でアカデミー助演男優賞にノミネート。

ウィリアム・サドラー,ボブ・ガントン,クランシー・ブラウン,ギル・ベローズ,マーク・ロルストン,ジェームズ・ホイットモア

●本作は興行的には成功したとは言えないが、批評家たちからの評価は高く、AFI のアメリカ映画ベスト 100(10 周年エディション)において 72 位にランクイン。日本では 1995 年のキネマ旬報ベストワン(洋画)に選ばれている。また受賞には至らなかったが、第 67 回アカデミー賞で 7 部門にノミネートされた。

ストーリー

1994 年製作、105 分のアメリカ映画。刑務所内の人間関係を通して、冤罪によって投獄された有能な銀行員が、腐敗した刑務所の中でも希望を捨てず生き抜いていくヒューマン・ドラマで、刑務所内に凝縮された人間の罪の実態(殺人、暴力、性暴力、脱税)と、一方では希望の持つ力、そして友情のすばらしさを、1947 年～1966 年の019 年間にわたって描く。 原作はスティーヴン・キングの中編小説「刑務所のリタ・ヘイワース」で、のちに同じ彼の原作で「グリーンマイル」を作ったフランク・ダラボンが初めて監督した作品。

クイズ

この映画の原題は「The Shawshank Redemption」で、直訳すると「ショーシャンクの贖い」。このキリスト教用語のタイトルはどういう意味? 何が贖い?

◆上映後◆

●これほど暗い内容なのに、見終わって気分がすっきりする映画も珍しい。"現代のモンテ・クリスト伯"(アレクサンドル・デュマ「巌窟王」)アンディーの脱獄が成功して、長年の夢がかなうことと、レッドとの友情が再びかなうことに負うものだが、この脱獄が、一切隠されていて、最後のポスターが破られて初めて分かる説くストーリー展開は見事。

この映画の見どころ

(1) 罪を裁くということの重さ:

① **冤罪**: この映画では、刑務所という私たちの知らない世界が赤裸々に描かれていくが、ある意味、それは罪のこの世の凝縮された縮図。とりわけ、冤罪でその地獄を味わわねばならなかった主人公の姿に、日本にも実在する同じ苦しみを味わった方々を重ね、正しい法の裁きを祈らされる。

② **終身刑(無期懲役)**: レッド「終身刑は陰湿な方法で人を廃人にする刑罰だ。」この刑罰はいわゆる不定期刑で、仮釈放が認められるまで、刑務所で過ごすというもの。他の懲役刑や禁固刑等と違い、明確に何年という区切りはない。アンディー、自殺したブルックス、そしてレッド、いずれも終身刑の宣告を受けてショーシャンク刑務所で服役していた。

ブルックスが釈放されたのはショーシャンクに入所して 50 年が過ぎたあと。レッドは 40 年。仮釈放されたとしても、社会から隔絶された数十年という時間を取り返すことは不可能。20 歳で収監された若者が刑務所を出たときには 60 歳、70 歳になっており、刑務所の外で新しく生活を始めるにはあまりにも年を取り過ぎている。誰が年老いた前科者を雇うか? 当然、十分な金を稼ぐことはできず、仕事口から住居まで、行政が世話をせざるを得ない。

＊ブルックスは「頑張ってはいるが、手の関節が痛む」と手紙に書いた。公園のベンチに座り、鳥に餌をやるブルックスの曲がった背中は孤独に押しつぶされていた。

＊ブルックス「刑務所へ戻りたい」。彼は仮釈放が認められた時、仲間のヘイウッドの首にナイフを突き付ける。ひと思いにやってしまえば、仮釈放が取消しになる。幾度もこの思いがブルックスの頭をよぎる。

＊レッド 「ここしか知らない」。高齢、貧困、孤独そして偏見。刑務所を一歩出た途端、これらの全てが襲いかかってくる。

＊レッド「あの塀を見ろよ。最初は憎み、次第に慣れ、長い月日の間に頼るようになる」。長過ぎる刑務所生活は刑務所に対する憎悪をかき消し、

×施設依存とも言える精神状態を生みだしていく。

×“見知らぬ世界”に対する不安と恐怖は、外界から隔絶した刑務所にいればいるほど増大し、元の世界へ戻れなくなっていく。

これが終身刑の本当の非情さ。

(2) 置かれた環境を最大限に生かす:

彼が脱獄しただけでなく、ホテルを開くことができたのは、入獄中に、財務能力を発揮し、ノートン所長の会計係として脱税を助け、それで蓄えた所長の金を、出所後に自分のものにしたから。それだけでなく、トニーに学問を教えて高卒の資格を取らせ、6 年間も州議会に陳情して、図書購入補助金を出させるなど、待遇改善にも寄与する。

彼はこのまじめな勤務ぶりと、能力を生かして上司に取り入り、その信頼を得て、脱獄計画の疑いを抱かせなかった。彼が、脱獄という奇跡を可能にしたのは、彼が置かれた環境を最大限に生かしたから。

(3)“希望”の途方もない力:

アンディー「希望とはいいものだよ。だぶん一番のものだ。決してなくならない。」

「音楽と希望は、刑務所が奪えないものだ。」

「希望はすばらしいもの。希望は永遠の命だ」

レッド(反論)「希望は危険だぞ。そんなものは塀の中じゃ不必要だ。」

＊アンディーが、無期懲役という、あの絶望的な環境の中で、生き延びることができたのは、“必ずここを出て、メキシコの海辺に小さなホテルを開く”という希望だった。

＊彼はそれを実現するため、具体的な目標を立て、実行した。レッドに調達してもらった一本のロックハンマーで、収容所の壁を 19 年間、こつこつ掘り続けたのだ。

＊一方、レッドはアンディーにハーモニカを贈られたが、吹こうとはしなかった。彼にとってハーモニカは自由な世界を思い出させるもの。アンディーはハーモニカを贈ることで、希望が大切だといいたかった。しかし、レッドにとって、自由になる見込みがない以

上、自由を思い出させるハーモニカは危険な存在だった。希望を失った人間は、生ける屍として、やがて精神を病み、死んでいくしかない。

＊ブルックス「私などが死んでも迷惑はかからんだろう」。彼が首を吊ったのは、塀の外に、生きる希望を見つけることができなかったから。

＊フランクル「夜と霧」も、コーリー・テン・ブーム「私の隠れ家」も、死のナチス収容所で生き残ることができたのは、主にある“希望”だった。

「希望は失望に終わることがない」(ローマ 5:5)

「あなた方が神のみ心を行って、約束のものを手に入れるために必要なのは忍耐です。」(ヘブル 10:36)

終わりに 「贖い」ー原題の意味するもの

●これが、最も聖書的に読み解かなければいけないポイント。この映画の他の解説で、これに触れているものはない。

① 「贖う」とは、値を払って買い戻すこと。

アンディー： 妻と不倫の相手の男を殺してはいないが、妻が不倫に走ったのは、自分の愛の足りなさに原因があると悔いて、19 年間も服役して自分の罪の値を払った。

レッド： 自分は、全とある若者の命を奪ってしまったという罪責感は、40 年間心から離れない。その重荷を、やはり服役によって払った。

二人は、それによって“自由”を買い取ったのだ。

② 「贖う」とは代価と引き換えに埋め合わせる・償うこと。

＊アンディーは、自らの脱税加担という不正を、善行(職員・囚人仲間の税務申告、図書室予算の獲得と囚人たちの教養の向上、高校資格取得のための教育、心を癒やす音楽「フィガロの結婚」=天井の歌声！を所内に流す、環境改善)で贖った。その是非は問われるところだが、聖書では、その生き方を褒めている。

(ルカ 16:1ー13) ある金持ちにひとりの管理人がいて、彼が主人の財産を乱費している、(アンディーの脱税加担)という訴えが出された。 主人は、彼を呼んで「もう管理を任せておくことはできないから、会計の報告を出しなさい。」と言う。管理人は心の中で「主人にこの管理の仕事を取り上げられるが、こうしておけば、いつ管理の仕事をやめさせられても、人がその家に私を迎えてくれるだろう。」と思い、主人の債務者たちを一人一人呼んで、その借金の証文の金額を少なく書き換えさせる(囚人たちの益となる善行)。

16:8(新改訳 2017)主人は、不正な管理人が賢く行動したのを褒めた。

(新共同訳)抜け目のないやり方を褒めた。

(口語訳)利口なやり方を褒めた。

16:9(〃)忠実な管財人として、主人の財産である不正の富(この世の富)で、自分のために友(信仰の友、真実の友、フィロス)をつくりなさい。そうすれば、富がなくなった時、彼らがあなた方を永遠の住まいに迎えてくれます。

＊不正な富、他人の富への忠実さが、神の国で用いられる、まことの富のためになくてはならないものだから。

＊私たちには、神のみ前に、自らの不正、罪を贖うべきなんのいさおしも持っていない。ただ一人、罪なきお方が身代わりに命を捨ててくださったことによって、贖われたこの身の幸いを、かみしめよう。 そして、やがて栄光の姿に変えられ、メキシコの小さなホテルなど及びもつかない、天の永遠の住まいに住めるという希望を持って、今、神様に置かれた場所で(そこが監獄でないことを感謝しつつ！)、精一杯に花を咲かせる生き方をしたい(渡辺和子「置かれた場所で咲きなさい」)。

「聖書で読み解く映画」って、本当にいいものですね。ではまたお会いしましょう。

ハレルヤ、ハレルヤ、ハレルヤ！